

マダガスカル
外国人材受入パイロット
事業説明会
～マダガスカル農業人材
の活躍支援に向けて～

JICAマダガスカル事務所

JP-MIRAI

プログラム

- ・マダガスカルのご紹介
- ・パイロット事業紹介
- ・関心企業・団体の募集について
- ・質疑応答

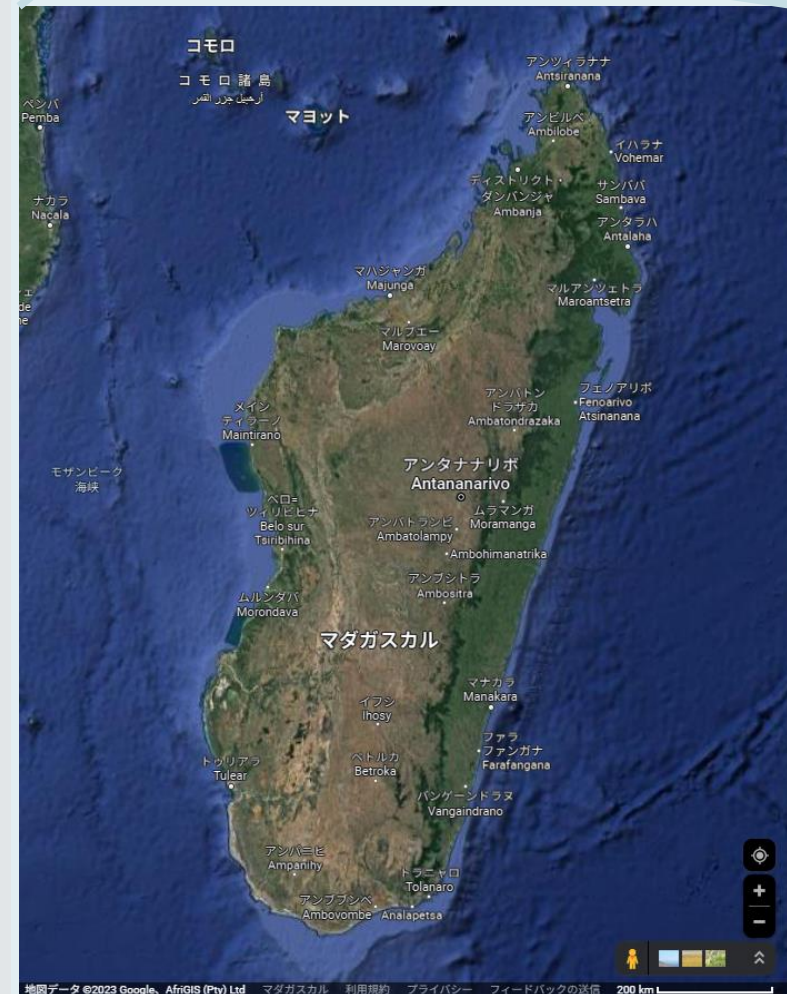


マダガスカルの紹介

マダガスカル 基本情報



- ・ 国名：マダガスカル共和国
- ・ 面積：587,041km²（日本の約1.6倍）
- ・ 人口：約28.9百万人（2021）
- ・ 民族：アフリカ大陸系、マレー系（約18の部族）
- ・ 公用語：マダガスカル語、仏語
- ・ 宗教：キリスト教、伝統宗教、イスラム教
- ・ 首都：アンタナナリボ



マダガスカル 社会・経済指標

【社会指標等】

- ・ 出生時平均余命：64歳（2021/世銀）
- ・ 5歳未満児死亡率（1000人あたり）：66人（2021/世銀）
- ・ 若年層識字率：81%（2021/世銀） 初等教育修了率：63%（2021/世銀）
- ・ 人間開発指数：0.501（2021/UNDP）

【主要経済指標等】（2021/世銀）

- ・ GNI/人：490米ドル（Atlas）
- ・ GDP実質成長率：4.4%
- ・ 消費者物価上昇率（インフレ率）：7.4%
- ・ 海外からの個人送金受け取り額：GDPの3.0%

マダガスカル 日本との関係

- ・ 総貿易額：

輸出19.6億米ドル(対日193.7億円)、輸入32.3億米ドル(対日14.3億円) (2020年)

- ・ 対日主要貿易品目

輸出 鉱物(ニッケル、コバルト他)、香辛料(クローブ、バニラ)、カカオ、魚介類 など

輸入 自動車、医薬品、タイヤ等ゴム製品等

- ・ 在留邦人151人 (2021.10現在)

- ・ 在日マダガスカル人125人 (2021年12月末現在)

- ・ 歴史

1963年、通商協定締結。1968年、在マ日本大使館設立。

1965年、大洋漁業がマジュンガに日仏合弁会社(マダガスカル水産会社)を設立し、エビなどの水産物を日本へ輸出。2009年の政情悪化により援助停止、マルハニチロホールディングは撤退。

住友商事が32.5%を出資(2017年、47.7%に増資)して世界最大規模のニッケル生産事業(アンバトビー)を開始(2012~)。

マダガスカルの主要産業：農業

- ・人口の86.5%、83.2%の家庭が農業に従事しています（2018/INSTAT）
- ・（農業が77.9%、畜産業が71.3%、漁業は18.1%。
農業と畜産を両方実施している家庭は61.2%）

種類	割合（%）
稲作	68.6
イモ類	56.3
米以外の穀物 （トウモロコシ、小麦など）	46.0
豆類	37.0
果物・野菜	28.4
工業作物（砂糖、油の原材料、麻など）	27.3
換金作物（バニラ、グローブなど）	17.1







畜産

養鶏は全国的に育てている家庭が多く、牛（基本的に肉牛）も一般的です。養豚が盛んなエリアは地理的（文化的）に限られていますが、中央高地が主な産地です。

種類	割合（％）
鶏	61.2
牛	36.1
豚	22.0
羊・ヤギ	8.1
養蜂	2.1
養蚕	0.2



高学歴の若者の失業率が高い

- ・失業率は4.2%（都市8.7%、農村部3.2%）（2018/INSTAT）

- ・若年人口・高学歴の失業率が高い傾向にあります

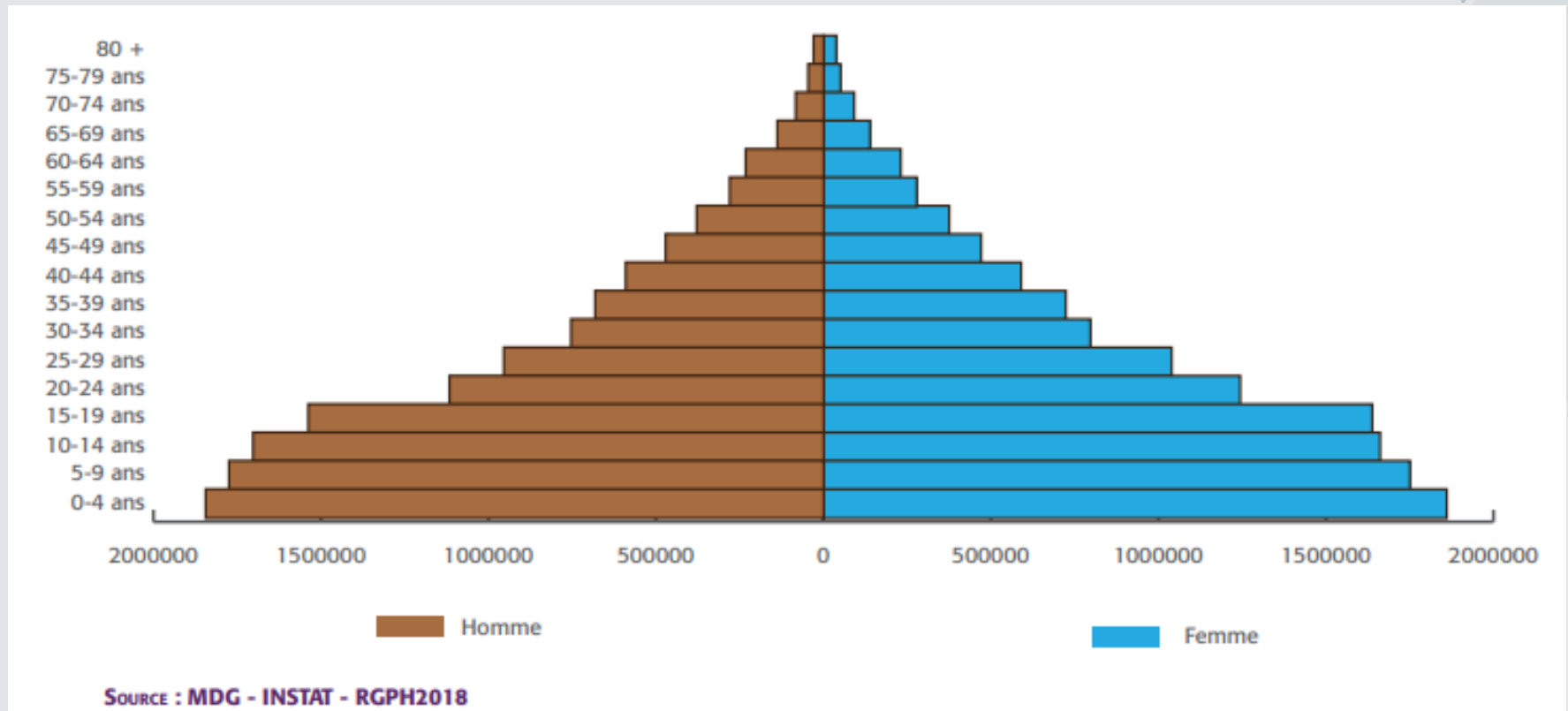
 - 15歳～30歳 7.2%（都市部15.9%、農村部5.5%）

 - 大卒以上 9.1%（初等教育修了 2.9%）

→経済規模に対して学士、修士を持つ国民が多く感じられますが、その受け皿となる産業があまり発達していません

増え続ける労働人口

平均年齢は22.4歳（中央値は18.0歳）と若年人口が非常に多く、増え続けています。



生活水準は非常に低い

- ・電化率は36.5%（2018）（都市部は71.2%ですが、農村部は28.3%）
- ・インターネット普及率は3.7%（2018）（都市部13%、農村部1.4%）
つながるエリアは広いですが、その媒体（スマートフォンやパソコン等）を持っている人口が少ない
- ・ラジオ、テレビ、PC、携帯等、何らかのコミュニケーション手段を持っている人は73%。
ラジオが一般的です。
- ・飲料水へのアクセスのある人口22.7%（2018）（都市部65.6%、農村部18.6%）

食生活

- ・ お米が主食で、一人当たり年間100kg程度消費するといわれています（2018、FAO・WFP）
（日本は年間50.8kg（2020年、農水省））
- ・ 野菜・フルーツもよくとれますが、米に比較すると高価なので消費量は限定的です。
- ・ おかずは肉が一般的です。牛、豚、鶏の順に安いです。魚は沿岸や湖の近くでは食べることもあります。コールドチェーンが発達していないため、内陸部では高級品です。
- ・ しばしばフランスパンも食堂で提供されます。



定番の朝ごはん
Vary Anana
青菜入り雑炊です
1杯 1000Ariary (30円) 程度

昼食
米とおかず
(写真は豆と豚)
3000Ariary (100円) 程度



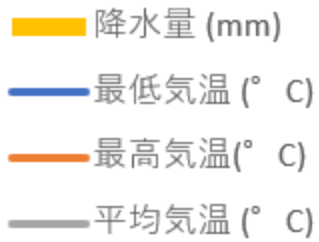
米粉とココナッツミルクを混ぜて
丸めてあげたおやつ

1つ 100Ariary (3円) 程度

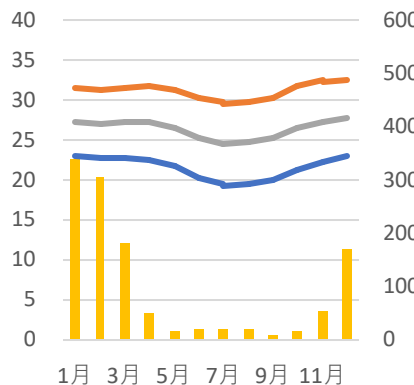


Mi-saoと呼ばれる焼きそば（焼きスパゲッティ）のようなもの
どこかアジア風の料理も多いです

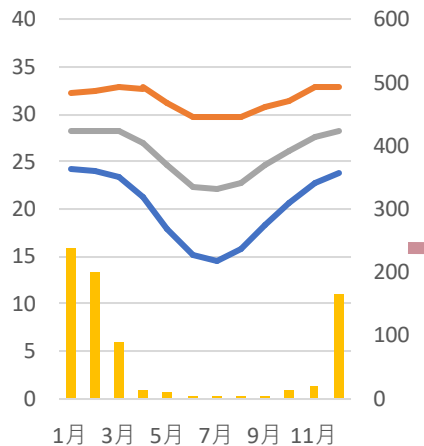
氣候



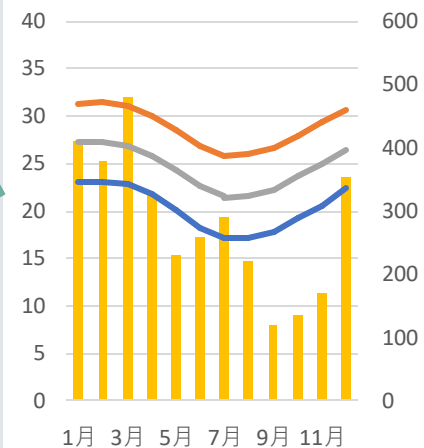
北部



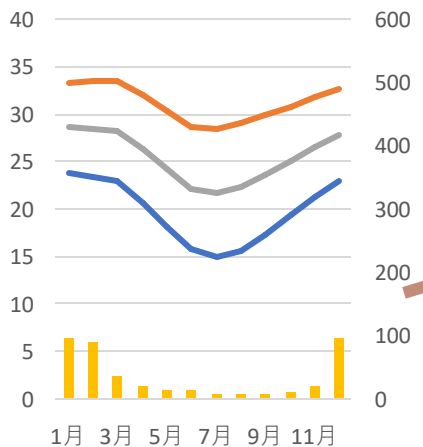
西部



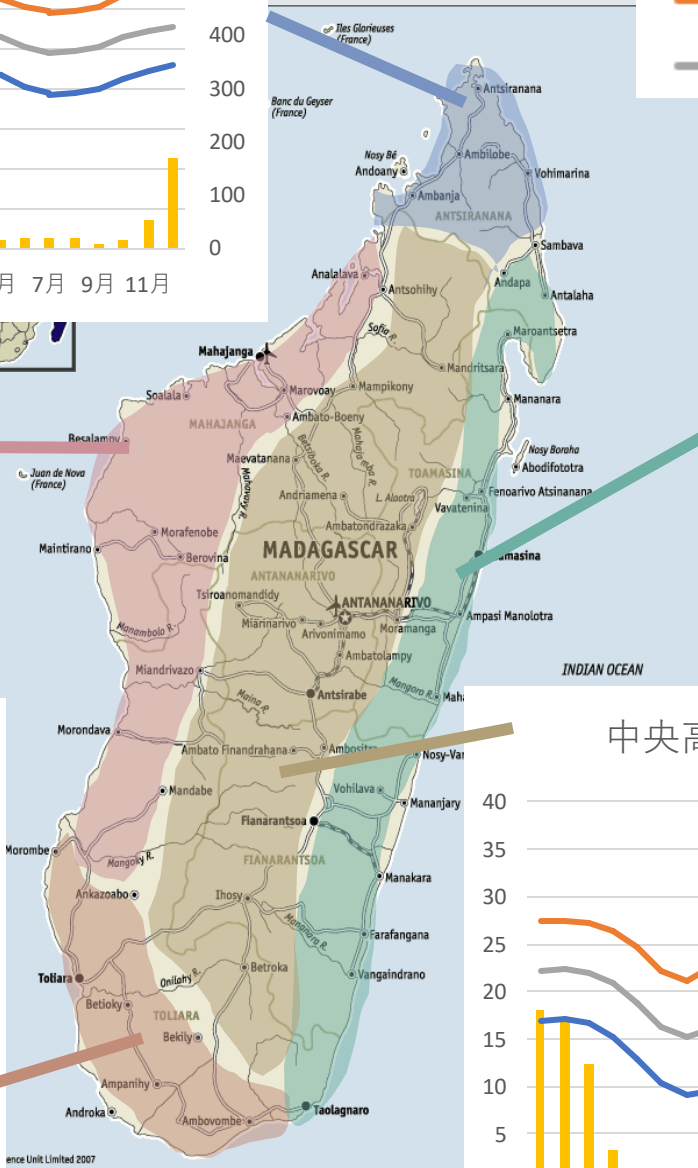
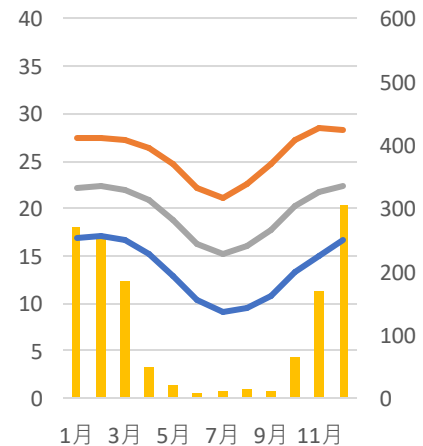
東部



南西部



中央高地



パイロット事業紹介



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 背景 —

日本側の事情：外国人材の不足

- 2040年には約674万人の外国人材が必要になるとの試算（2021年時点では182万人）
- 東南アジア以外にもアフリカ等新たなフロンティア開拓の必要性も指摘されている

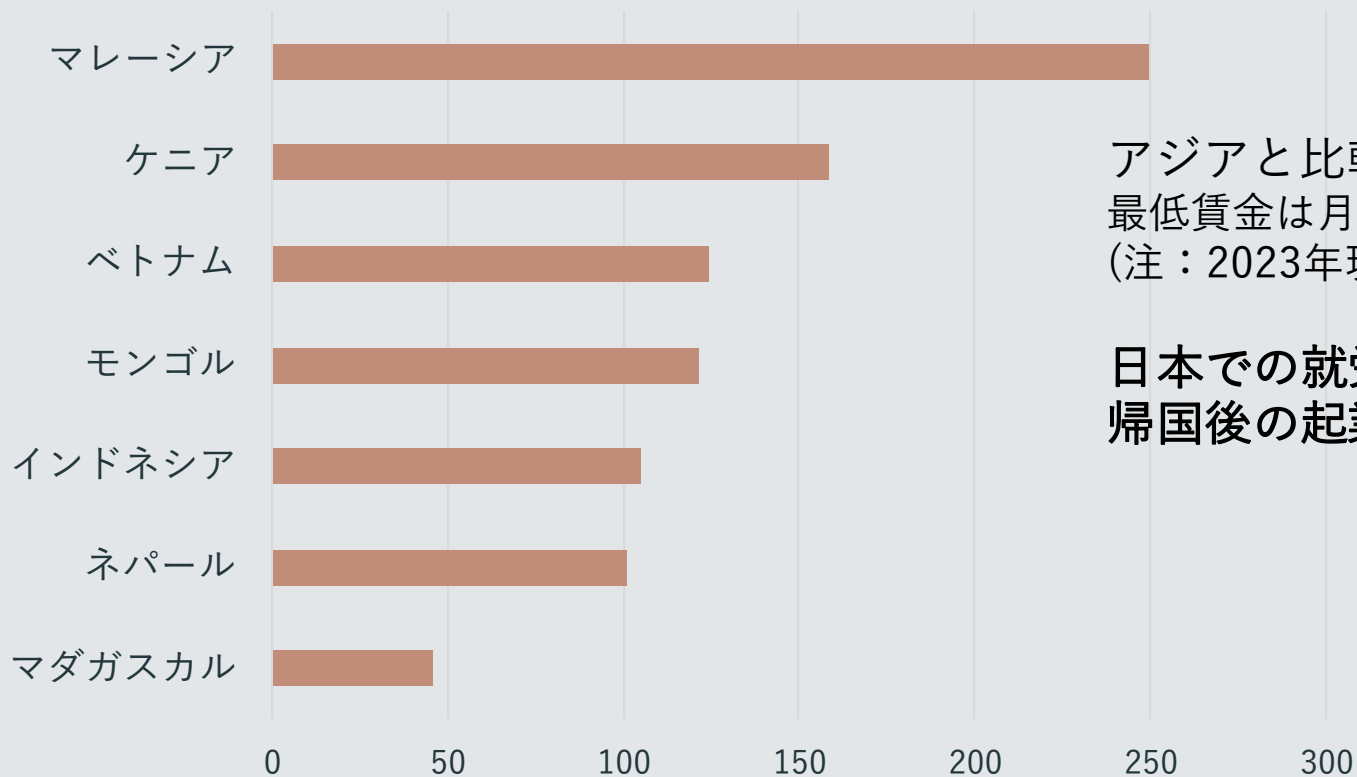
マダガスカルの特徴・比較優位

- アフリカ入門国：マレー・ミクロネシアをルーツに持つ人も多く、文化・人種的にも最もアジアに近いアフリカ
- 島国の共通点？：（比較的）まじめで勤勉、思ったことをストレートには言わない国民性（日本人のよう）
- 日本語学習環境の充実：サブサハラアフリカで一番、アフリカではエジプトに続き二番目に日本語学習者も多い。大学や高校の他、私立の日本語学校も複数存在。
- アジアと比較して格段に安価な人件費：最低賃金は月額54USドル（約7600円）⇔アジアは100ドル越えの国も多い
- 農業分野の共通点：稲作が盛ん。気候も日本に通じるものがあり、野菜や果樹など日本でも生産されている作物も多い。

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト

一 背景 (補足：マダガスカル人労働者の状況) 一

最低賃金 (月額 USD)



アジアと比較して格段に安価な人件費
最低賃金は月額45米ドル (約6000円) 程度
(注：2023年現在は54米ドル (約7600円))

日本での就労を通じて得た収入で
帰国後の起業や投資の促進も期待できる

マダガスカルMadagascarの海外就労の現状

全体的に海外就労制度が未発達

- 2019年には移民労働者に関する条約（第143号）、民間の職業紹介所に関する条約（第181号）、家事労働者に関する条約（第189号）および強制労働者に関する議定書を批准した。
- ILO支援（2017年～2021年）にてこれらの批准の後押し、手順書、二国間協定草案の作成等を支援したものの、国内法整備は未だ進んでいない。

海外職業紹介所は公式には存在しない

- アラブ諸国における強制労働、虐待、人身売買等の事例を踏まえ、2013年から高リスク国への移民労働者派遣の停止
- 2015年すべての民間職業紹介所の承認を廃止、承認を得るためには海外の職業紹介所・会社等とのパートナーシップを締結する必要がある。

カナダ（仏語圏であるケベック州）は個別にプログラムを実施

- マダガスカル政府とケベック州政府が個別に覚書を締結。ケベック州政府（より委託された業者）がオンラインの職業紹介プラットフォームを運営。マダガスカル独自のものではなく、他国にも共通のもの。
- その他、職業紹介を担っている団体が複数ありそうだが、実態は不明（コンタクト拒否される）

その他

- フランスやコモロなどに就労者が一定数いる（こちらは恐らく親戚の伝手などで就労？）

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 内容 ー

・目的

マダガスカルの若手農業人材を日本へ特定技能労働者として送り出し、マダガスカルの農業分野の人材育成及び日本の労働力不足解消へ貢献する

・活動

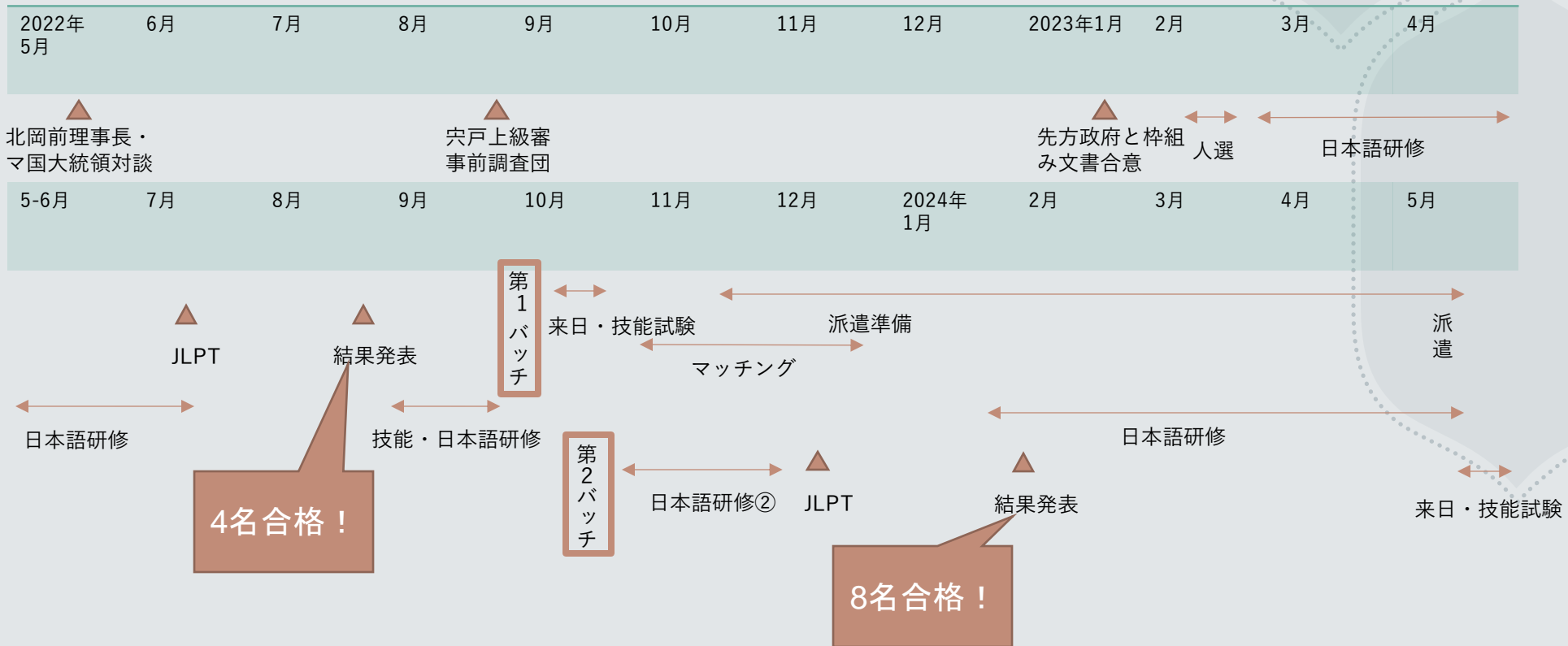
派遣前訓練の実施（日本語研修・技術研修）

送り出しに向けたマダガスカル政府の手続き・制度の整備

日本側受け入れ機関の開拓・マッチング支援

送り出し後の定期的な研修、帰国後のアクションプラン策定支援

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの経緯・予定 —



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2022年5月 北岡前JICA理事長のマダガスカル訪問

マダガスカル大統領との対話を切っ掛けに本格始動



2022年8月 宍戸上級審議役のマダガスカル訪問

マダガスカル政府とパイロットプロジェクトの大枠を議論



2023年1月 プロジェクト枠組み合意

大統領府、外務省、公安省、雇用・労働・社会法・社会保障省、職業訓練省、農業・畜産省とプロジェクト枠組み文書に署名

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2023年1月 候補者募集開始

農業・畜産省及び職業訓練省より、傘下の農業研修センター・技術高校等を卒業した人を対象として募集



2023年2月 面接・候補者確定

200名を超える応募から、書類選考・面接を経て、20名の候補者を選出



2023年2月 日本語研修開始

20名の候補者に対して日本語研修を開始

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 日本語研修 ー

- ・2023年2月～6月、10月・11月
- ・マダガスカル人の日本語教師
- ・10人ずつ2グループ
週5日4時間講義＋自習
週に1回程度文化体験



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 第1バッチ 来日プログラム ー

- ・実施時期：2023年10月中旬の10日間
- ・対象者：2023年7月のJLPT試験を合格した4名
- ・プログラム内容
 - 技能試験受験（4名とも合格）
 - 就業体験（3社にて受入）
 - 企業説明会（2社と面談）

現在面接選考→送り出し準備中



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 紹介動画 —

マダガスカルの農業と若手農家たちを紹介する動画です

<https://youtu.be/XCnry8ZZaVg>



A young woman with a bright smile is waving her hands towards the camera. She is wearing a colorful, patterned orange top and a blue headband. In the background, a group of people, some wearing blue shirts, are also waving their hands, suggesting a lively outdoor event or gathering.

関心企業・団体の皆様へのご案内

第2バッチの来日について

日付	曜日	内容（案）
5月17日	金	PM マダガスカル発
5月18日	土	PM 日本着
5月19日	日	試験準備
5月20日	月	オリエンテーション・試験準備
5月21日	火	試験受験
5月22日	水	就業体験
5月23日	木	就業体験
5月24日	金	企業説明会
5月25日	土	PM 日本発
5月26日	日	PM マダガスカル着

- ・ 2024年1月のJLPT試験に合格した候補者8名の来日予定
- ・ 滞在地：JICA筑波センター
- ・ 主な内容
 - 技能試験の受験
 - 就業体験
 - 企業説明会

企業説明会のご案内

- ◆ 日時：5月24日（金）午後（全体2時間程度）
- ◆ 場所：都内某所
- ◆ プログラム
 - 第1部：各社からの説明（各社10分程度ずつ）
 - 第2部：面接ブースにおける個別面談
- ◆ 参加費：無料（交通費は自己負担にてお願いいたします）
- ◆ 候補者と直接面談頂ける機会です。

就業体験先の募集

- ・ 日程：5月22日（水）もしくは23日（木）（日帰り又は1泊2日）
- ・ 募集内容：原則、つくば市から日帰り圏内、もしくは1泊2日のご提案の場合には、移動を含めて1泊2日で終了するプログラム。
- ・ 候補者8名の交通費、宿泊費・食事代・通訳等についてはご相談

- ・ 候補者8名のうち2名は農業分野、6名は畜産分野の技能試験を受験予定。検疫の観点から、畜産農家の訪問は難しいと思われませんが、耕種農業の現場訪問のご提案を頂けると幸いです。

来日プログラム～就職～渡日への流れ

- ・来日プログラム中、企業説明会にて関心企業様と候補者が直接コンタクト
- ・マダガスカル帰国後、オンラインで面接等を実施
JICAは候補者に対する英仏⇔マダガスカル語翻訳・通訳の手配等をサポート
日程調整等は関与できません
- ・契約同意後、日本・マダガスカル双方で必要な手続きの実施
JICAにてマダガスカル政府への手続きのサポートを実施
- ・渡航

（ご参考）マダガスカルからの送り出しに必要な手続き

- ・ 職業紹介を行うために必要な手続き
 - 書類の提出
 - 書類確認依頼レター（フォーマット有）
 - 登記簿写し
 - 大統領府による確認、通知
- ・ （日本にて職業紹介許可の手続きを実施）

(ご参考) マダガスカルからの送り出しに必要な手続き

・採用活動を行うために必要な手続き

在京マダガスカル大使館への書類の提出

書類確認依頼レター (フォーマット有)

登記簿写し

日本政府より職業紹介許可を得ていることが分かる書類 (職業紹介機関が申請する場合)

当該候補者を採用する旨を表明するレター (今回のように事前にマッチング等をしている場合)

求人情報

大使館による確認、通知

マダガスカル労働省へ提出

マダガスカル労働省による確認、通知

(ご参考) マダガスカルからの送り出しに必要な手続き

・採用決定後送り出しに必要な手続き

在京マダガスカル大使館への書類の提出

雇用契約書

依頼レター (フォーマット有)

各種候補者の身分を証明する書類等

健康診断結果

大使館による確認

マダガスカル労働省へ提出

労働省、公安省、外務省による確認 (15日程度)

労働省から確認を終えた旨通知

関心企業マーキングリスト

・来日プログラムへのご参加の他、今後本件に関して継続的にご連絡を受け取りたい方はフォームよりご登録をお願いします。

ご連絡先、会社概要、HPなどの情報をお伺いします

マダガスカル外国人材パイロット
プロジェクトご関心表明フォーム



ご清聴ありがとうございました